

平成 19 年度  
老人保健健康増進等事業  
による研究報告書

# 若年認知症支援ハンドブック

認知症介護研究・研修大府センター

認知症介護研究・研修東京センター

認知症介護研究・研修仙台センター

## はじめに

認知症は加齢とともに発症するリスクが高くなる疾患ですが、高齢者でなくても発症することがあり、64歳以下で発症した認知症を若年認知症といいます。若年認知症は働き盛りの世代にも起こり、本人だけでなく、家族の生活への影響が高齢者に比べて大きいにもかかわらず、その実態が明らかでなく、また支援も十分ではありません。

本人や配偶者が現役世代であり、病気のために仕事に支障が出たり、失職して経済的に困難な状況に陥ることになります。また、子供が成人していない場合には親の病気が与える心理的影響が大きく、教育、就職、結婚などの人生設計が変わることにもなりかねません。さらに、本人や配偶者の親の介護が重なることもあり、介護の負担が大きくなります。介護者が配偶者に限られて、介護者も仕事が十分にできなくなり、身体的にも、精神的にもまた経済的にも大きな負担を強いられることになります。

このように働き盛りの人に起こる若年認知症は、本人や家族だけでなく社会的にも重大な問題ですが、企業や医療・介護の分野でもまだ認識が不足しているのが現実です。そこで、認知症介護研究・研修センターでは平成18年度から、三センター共同研究として「若年認知症の社会的支援策に関する研究事業」に取り組んでいます。

平成18年度は愛知県において若年認知症とその家族の実態を把握し、基礎的なデータを得るとともに、ご本人や家族、介護者などからの要望や意見を収集しました。それらを元にして、平成19年度は、この「若年認知症支援ハンドブック」を作成しました。

疾患の医学的理解、心理的な側面はもとより、生活に密着した情報、すなわち公的な支援やサービスの種類やその受け方、医療機関へのかかり方、自動車運転に関する情報、財産管理、家族への援助、さらに亡くなられた場合のグリーフケアまで、幅広く、実際に役立つ知識や情報をそれぞれの専門家や、現場で若年認知症に関わっている方々にわかりやすく書いていただきました。

若年認知症のご本人や家族だけでなく、かかわりのある医療・介護福祉の関係者、企業の関係者にも参考にしていただきたいと考えます。この「若年認知症支援ハンドブック」の活用によって、若年認知症の人や家族の生活がよりよいものになっていけば幸いです。

ご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。

平成20年3月末日

認知症介護研究・研修大府センター  
研究部長 小長谷 陽子

## 目次

第1章 若年認知症とは？	1
第2章 原因疾患	3
第3章 診断	7
第4章 症状	11
第5章 治療	19
第6章 経過中に遭遇する課題と対応	21
第7章 本人と家族の心理的側面の理解と配慮	31
第8章 「仕事」への支援	35
第9章 車の運転について	49
第10章 生活を支える社会福祉制度 - 経済的問題解決を中心に -	65
第11章 社会参加への援助	81
第12章 介護保険	107
第13章 家族への援助	113
第14章 財産管理・身上監護（生活支援）	117
第15章 グリーフケア	123
執筆担当	131
参考文献及び引用文献	133